

壊れたチェスボード：ブレジンスキーが米帝国を断念する

【訳者注】これは 7/31 「ブレジンスキーの悪夢：ロシア、中国、および現実の戦争の見通し」 (http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160731_1.pdf) への修正としても読める。ブレジンスキーは最後まで、アメリカの邪悪で愚かな夢を信じたまま、死んでいくかのような注を付けたが、そうではなく、アメリカ帝国を断念するような論文を書いていた。米戦略家の大御所であるブレジンスキーが、このような見解を発表してくれたのは、大きな意味をもつ。米露間で、いつ間違っただけで戦争のボタンが押されるかわからない時に、この論文は、かなりの抑止効果をもつのではないだろうか？ それとも、この論者が予想するように、ヒラリー一次期大統領(?) は、そんなものは歯牙にもかけず、世界制覇計画を強行して世界を破壊するのだろうか？ ブレジンスキーはさすがに冷静な分析の上に立って、この自己否定とも言える結論を出した。読者のコメントの中に「彼の過去の言動から考えて、そんなことはとうてい信じられない」というのがあるが、やはり信じたいと思う。

Mike Whitney

August 26, 2016, Information Clearing House, Counterpunch



世界を支配するワシントンの計画の中心的計画者が、この謀略を断念し、ロシアや中国との連携を探ることを提言した。ズビグネフ・ブレジンスキーの *American Interest* に掲載されたこの論文「地球的な再整列へ向けて」(Towards a Global Realignment) は、メディアによってほとんど無視されているが、政策立案組織の強力なメンバーたちが、もはやワシントンが、中東やアジアにその覇権を広げようとしても、勝てる見込みはないと思っていることを、それは示している。ブレジンスキーは、これまで、こうした計画を提唱する主要人物であり、1997年の著書『大いなるチェスボード：アメリカの制覇とその地戦略的絶対命令』(*The Grand Chessboard: American Primacy and Its Geostrategic Imperatives*) で、帝国主義的拡大の青写真を起草したものだが、今、180度転換して、この戦略の劇的な修正を唱えている。ここに「アメリカン・インタレスト」誌のその論文から抜粋する――

「その地球的制覇の時代の終わりとともに、アメリカは、地球的権力構造の再整列化をリードする必要がある。

地球的な政治権力の再配分と、中東で暴力的な政治的覚醒が起こってきたことに関する、5つの基本的な事実は、新しい地球的な再整列が生じつつあることを指し示している。

これらの事実の第一は、アメリカは依然として、世界の、政治的・経済的・軍事的に最強の国家ではあるが、地域的なバランスの複雑な地政学的なシフトを考えるなら、それはもはや地球的な帝国権力ではない。」(ブレジンスキー「地球的な再整列へ向けて」)

繰り返そう——アメリカは「もはや地球的な帝国権力ではない。」この評価を、ブレジンスキーが何年前、『チェスボード』において、アメリカは「世界の至上の権力である」と言ったときと比べてみるとよい。

「…20世紀の最後の10年間に、世界の情勢に地殻変動的な変化が起こった。歴史上初めて、一つの非ユーラシアの強国 [アメリカ] が、ユーラシアの力関係の鍵的調停者としてだけでなく、世界の至上の強国として出現した。ソビエト連邦の敗退と崩壊は、一つの西半球の強国アメリカの、唯一の、そして実に最初の、真に地球的強国としての、急速な登場の初めの一步であった。」(ブレジンスキー『大いなるチェスボード』、1997, Basic Book, p.xiii)

「アメリカン・インタレスト」の論文からもう少し引こう——

「実を言えば、アメリカが世界の舞台に現れるまでは、真に“支配的な”地球的強国というものは存在しなかった。…決定的に新しい地球的现实は、アメリカが世界の舞台に、最も豊かであると同時に軍事的に最も強力な役者として、登場したことだった。20世紀の後半を通じて、これに匹敵する他の強国は存在しなかった。その時代は今終わろうとしている。」

しかし、なぜ「その時代は今終わろうとしている」のだろうか？ ブレジンスキーがアメリカを「世界に並ぶ者のない強国」だと言った1997年以来、何が変わったのだろうか？

ブレジンスキーが指摘するのは、ロシアと中国の台頭、ヨーロッパの弱体化、それに「植民地時代後のムスリムの間、暴力的な政治的覚醒」で、それらがこの突然の反転の近因だと言う。彼のイスラムについてのコメントが特に面白いのは、彼が、典型的な政府による決ま

り文句“我々の自由に対する憎しみ”ではない、テロリズムの合理的な説明をしていることである。彼の名誉のために言うと、ブレジンスキーは、テロの発生を「歴史的な恨みが、埋もれた不正の思いから湧き上がってきたもの」と見て、狂信的なサイコパスの残酷な暴力とは考えていない。

当然ながら、短い 1,500 語の論文では、ブレジンスキーは、アメリカが将来、直面するであろうすべての難題や脅迫を論ずることはできない。しかし明らかなことは、彼が最も心配しているのは、ロシア、中国、イラン、トルコ、その他の中央アジア諸国の、経済的、政治的、軍事的な結束の強化である。これが彼の主たる懸念の領域であって、実は彼は、この問題を『チェスボード』を書いた 1997 年にすでに予測している。彼はこう言っている――

「今後アメリカは、ユーラシアからアメリカを押し除け、地球的強国としてのアメリカの地位を脅かそうとする地域連合に、どう対抗するかを決断しなければならなくなるだろう」(p.55)

「もっと野蛮な、古代の帝国へ遡る言葉遣いをするならば、帝国の地戦略の 3 大命令とは、従僕国の間の結託を防ぎながら安全保障は帝国に拠らしめ、属国を従順で保護された状態に保ち、野蛮人どもが結束しないように配慮することである」(p.40)

「従僕国の間の結託を防ぐ…」これですべてがわかるのではないだろうか？

オバマ政権の無謀な外交政策、特にリビアとウクライナの政府の転覆は、反米連合が形成される速度を大いに加速させた。言い換えると、ワシントンの敵は、ワシントンの行動に応じて現れてきた。オバマは自分を責めることしかできない。

ロシア連邦大統領ウラジミール・プーチンは、地域の不安定化と、NATO 軍のロシア国境への配備のますます高まる脅威に対して、ロシア周辺と中東全域の諸国同盟を強化することによって対抗している。同時に、プーチンと BRICS 諸国（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ）は、アメリカの地球的権力の源であるドルによる支配機構に究極的に挑戦することになる、代替銀行組織（BRICS 銀行と AIIB）を設立した。これこそブレジンスキーが、急速な 180 度の転回をして、アメリカの覇権計画を放棄した理由である。彼が懸念しているのは、ドルをベースとしない組織が、発展途上国と非同盟諸国に広がって、西洋の中央銀行寡頭独占に取って代わることである。もしそれが起これば、アメリカは地球的経済のとりでを失い、価値のない米国紙幣が価値のある物品やサービスに交換できる、ゆすりシステムが終わることになる。

不幸なことに、ブレジンスキーのより慎重なアプローチは、武力による帝國的拡大を固く信じている、大統領候補人気者のヒラリー・クリントンによって、踏襲されることはなさそうである。2010年の「アメリカの太平洋世紀」というスピーチで、戦略的用語に pivot（方向転換？）という言葉を導入したのは、クリントンであった。以下は、雑誌 *Foreign Policy* に載ったこのスピーチの抜粋である――

「イラクでの戦争が収まり、アメリカがその軍隊をアフガニスタンから撤退させるにつれて、アメリカは転換点に立つことになります。過去 10 年間で、我々は膨大な資源をこれら 2 つの劇場に費やしてきました。次の 10 年間には、我々は、どこにカネとエネルギーを投入するかについて賢く組織的にならねばなりません。我々のリーダーシップを保持し、利益を確保し、我々の価値を増進させるのに最善の場所にいなければなりません。次の 10 年間のアメリカの政治戦術の最も重要な課題の一つは、したがって、かなり増大した投資――外交、経済、戦略、その他の投資――をアジア - 太平洋地域に集中することです。…

アジアの成長とダイナミズムを利用することが、アメリカの経済的・戦略的利益にとって中心であり、オバマ大統領にとってカギとなる優先課題です。アジアにおける開かれた市場は、アメリカに、投資や貿易、先端的テクノロジーの利用の機会を与えるものです。…アメリカの商社は、アジアの膨大な、成長する消費者ベースを開発すべきです。

この領域はすでに、地球的産出の半分以上と、地球的貿易額の半分近くを生み出しています。2015 年までに、オバマ大統領の輸出倍増の目標を達成する努力をしながら、我々はアジアにおいて、更に多くの取引と、…アジアのダイナミックな市場への投資機会を求めています。」（ヒラリー・クリントン国務長官 “*America’s Pacific Century*”, 2011）

このクリントンのスピーチを、14 年前に *Chessboard* で述べたブレジンスキーのコメントと比較してみよう――

「アメリカにとって、主な地政学的な獲物はユーラシアである… (p.30) …ユーラシアは地球最大の大陸であり、地政学的に軸をなしている。ユーラシアを支配する権力は、世界の 3 つの最も進んだ、経済的に生産的な地域の 2 つを支配するだろう。…世界人口のほぼ 75% がユーラシアに住んでいて、世界の有形的な富のほとんどもまた、企業と地下資源の両方の形で、そこにある。ユーラシアは、世界の GNP の 60% と世界の既知のエネルギー源の約 4 分の 3 の根源となっている。」 (p.31)

戦略的な目標は、この両者に変わりはない。唯一の違いは、ブレジンスキーが、変わりゆく

環境と、アメリカの脅しや支配や制裁に対する、増大する抵抗に基づいて、コースの修正をしたことである。我々はまだ、アメリカ天下の転換点に達してはいない。しかしその日は最早に近づきつつあり、ブレジンスキーはそれを知っている。

これに対して、クリントンはいまだに、アメリカの覇権をアジアすべてに広げることに、完全に捕らわれている。彼女は、このことが自国または世界に及ぼすリスクを理解していない。彼女は、アメリカの戦争製造ジャガーノート（巨大戦車）が立ち往生するまで、介入を継続しようとしており、それは、彼女の誇張的なレトリックを使うなら、おそらく彼女の最初の任期のどこかで起こるだろう。

ブレジンスキーは、合理的だが、やはり自己奉仕的な計画——未来の紛争を煽らず最小限にとどめ、核の大破壊を避けて地球的秩序（別名、ドル・システム）を保つ計画——を提案している。しかし、血に飢えたヒラリーは彼の忠告に従うだろうか？

それは望めそうもない。

（マイク・ホイットニーはワシントン州在住。彼は *Hopeless: Barack Obama and the Politics of Illusion* (AK Press) への寄稿者。この本はKindle版でも手に入る。連絡先は、fergiewhitney@msn.com)